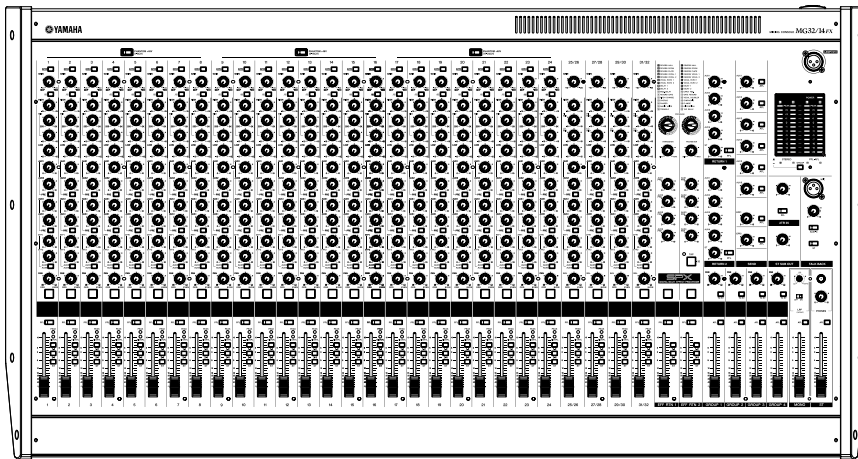




MIXING CONSOLE

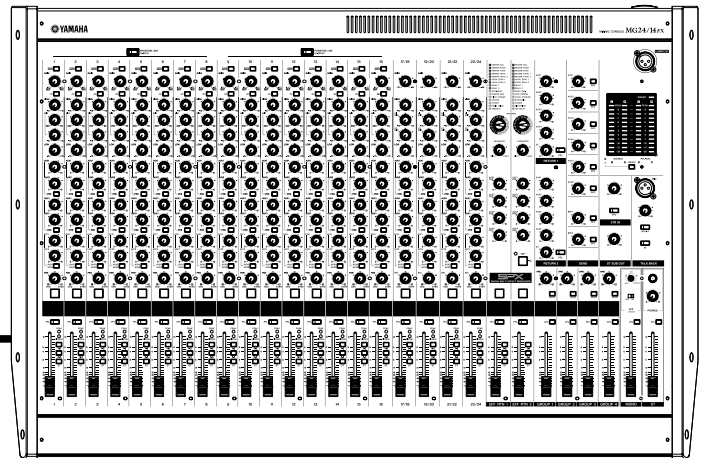
MG32/14FX MG24/14FX

取扱説明書



MG32/14 FX

MG24/14 FX



安全上のご注意




ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源 / 電源コード



電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源コードは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードを他の製品に使用しない。
故障、発熱、火災などの原因になります。

必ず実行



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

禁止

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

接続



アース(接地)を確実にこなう。
電源コードには、感電を防ぐためのアース線があります。電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をアース接続してください。確実にアース接続しないと、感電の原因になります。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとで行なってください。

必ず実行

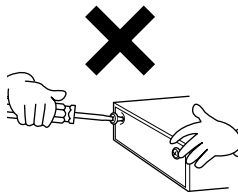
分解禁止



禁止

この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。



水に注意



禁止

この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気が多いところで使用しない。

感電や火災、または故障の原因になります。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

電源コードやプラグがいたんだ場合、または使用中に音が出なくなったり異常におい煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



必ず実行

この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

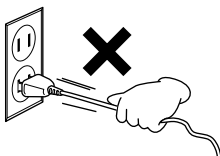
感電や火災、故障の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



設置



必ず実行

この機器を持ち運ぶ場合は、必ず2人以上で行なう。この機器が落下して破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

この機器を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常におい煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



禁止

イコライザーやフェーダーをすべて最大には設定しない。接続した機器によっては、発振したりスピーカーを破損したりする原因になることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。

この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



禁止

不安定な場所に置かない。この機器が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

この機器の通風孔をふさがない。内部の温度上昇を防ぐため、この機器の前部 / 後部 / 側部 / 上部 / 底部には、通風孔があります。

特に、以下のような使用はしないでください。

- この機器をひっくり返したり、横倒しや前後左右逆さまにしたりする。
- 風通しの悪い狭いところに押し込める。
- ゴム足を取り外して使用する。
- 毛の長いカーペットなどの上で使用する。
- すき間のないツアークースに入れたまま使用する。

機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。

この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての電源を切った上でなう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量(ボリューム)を最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

使用時の注意



ご注意ください

この機器の通風孔/パネルのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをされるおそれがあります。



禁止

この機器の通風孔/パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォン/スピーカーを使用しない。聴覚障害の原因になります。



禁止

この機器の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。この機器が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

XLR タイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです。

(IEC60268 規格に基づいています)

1: シールド(GND)、2: ホット(+)、3: コールド(-)

INSERT I/O 端子のフォンジャックのピン配列は以下のとおりです。

T: OUT、R: IN、S:GND

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

スイッチ、ボリュームコントロール、接続端子などの消耗部品は、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要になります。消耗部品の交換は、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

■ 音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよくとおり、とくに低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏にはとくに気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- ヘッドフォンをご使用になる場合は、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

* この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

* この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって実際の仕様と異なる場合があります。

市販の音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など、著作権上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することが禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いいたします。

はじめに

このたびは、YAMAHA ミキシングコンソール、MG32/14FX、MG24/14FX をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。MG32/14FX、MG24/14FX は、SR 用メインミキサーから設備音響までに対応し、かつコストパフォーマンスに優れたミキシングコンソールです。

MG32/14FX、MG24/14FX の優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

特長

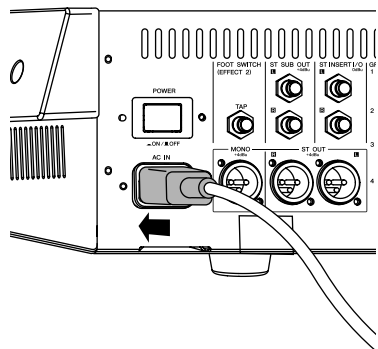
- マイクからラインレベル機器まで対応する 24 チャンネル (MG24/14FX は 16 チャンネル) のモノラル入力に加え、ラインレベル機器に対応する 4 系統のステレオ入力を装備しています。
- 定評あるヤマハマルチエフェクターSPXシリーズ直系のデジタルエフェクトを 2 系統内蔵し、ボーカルや楽器にさまざまなエフェクトを加えることができます。
- 内蔵デジタルエフェクトには、ディレイタイムを簡単に調整できる TAP DELAY があります。TAP ボタンやオプションの FC5 フットスイッチでディレイタイムを任意に設定できます。
- メインのステレオ出力に加え、2 系統のエフェクト出力、6 系統の AUX 出力、4 系統のグループ出力 (計 14 系統) を装備しています。
AUX と GROUP の出力は、外部エフェクターや MTR に接続して利用するだけでなく、モニターとしてスピーカー / アンプごとに個別のミックスを作る場合にも便利です。
- ST OUT 端子とは独立してコントロールできる MONO 端子を装備しています。MONO 端子からはメイン出力をモノラルにミックスした信号が出力されますので、サブウーハースピーカーへの接続など SR システムの拡張に便利です。
- すべてのモノラルチャンネルに INSERT I/O 端子を装備しています。チャンネルごとに個別のエフェクターを接続できます。
- すべてのインプットチャンネル / AUX リターン / 2TR IN に PFL スイッチ、AUX / グループ / ステレオ出力チャンネルには AFL スイッチを装備しています。PHONES 端子につないだヘッドフォンから素早く入出力信号をモニターできます。
- 8チャンネルごとにオン/オフできるファンタム電源を搭載しています。外部電源が必要なコンデンサーマイクやダイレクトボックスに対して、XLR タイプ入力端子から DC + 48 V の電源を供給できます。
- 2系統のステレオ RETURN 端子を装備しています。ST バスだけでなく AUX バスにも AUX リターン信号を送ることができます。また、予備のラインレベル入力端子としても利用できます。

目次

はじめに	6
特長	6
電源の準備	7
セットアップ	7
各部の名称と機能	8
チャンネルコントロール部	10
マスターコントロール部	13
リア入出力部	19
付録	22
仕様	22
寸法図	25
ブロック / レベルダイアグラム	26

電源の準備

- (1) 本体の POWER（電源）スイッチがオフ ■ になっていることを確認してください。
- (2) ACコードのソケットをリアパネルの AC IN 端子にしっかり差し込みます。



- (3) ACコードのプラグを家庭用(AC100V)コンセントにしっかり差し込みます。



長期間本機を使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源コードのプラグを抜いてください。

セットアップ

- (1) マイクや楽器を接続する前に、すべての機器の電源がオフになっていることを確認します。また、本機の各チャンネルのフェーダーとマスターコントロール部のフェーダーがすべて下がっていることを確認してください。
- (2) マイクや楽器にケーブルを接続し、ケーブルの另一端を本機の入力端子にしっかり差し込みます。

NOTE

ひとつのインプットチャンネルで INPUT A と INPUT B（ステレオチャンネルの場合は、フォーン端子と RCA ピン端子が併設されたチャンネル）を同時に使用することはできません。どちらか一方の端子だけをご使用ください。

- (3) 周辺機器→本機（ファンタム電源を含む）→パワーアンプ（パワードスピーカー）の順番で電源を入れます。

NOTE

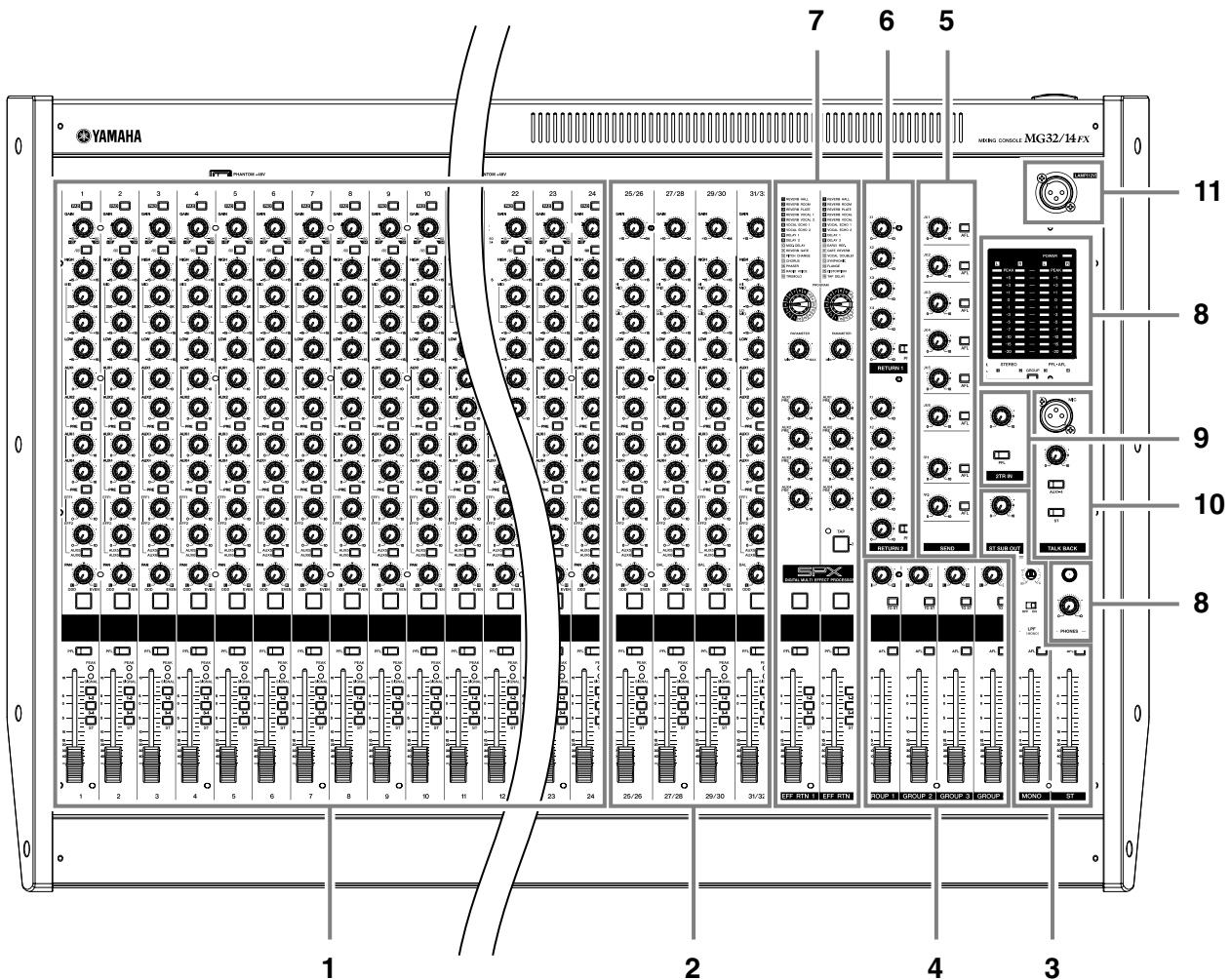
電源を切るときはこの逆で、パワーアンプ（パワードスピーカー）→本機（ファンタム電源を含む）→周辺機器の順番でオフにします。



内部の温度上昇を防ぐため、本機の前部 / 後部 / 側部 / 上部 / 底部に設けられた通風孔をふさがないでください。

各部の名称と機能

フロントパネル



* 本書中のイラストはすべて MG32/14FX です。

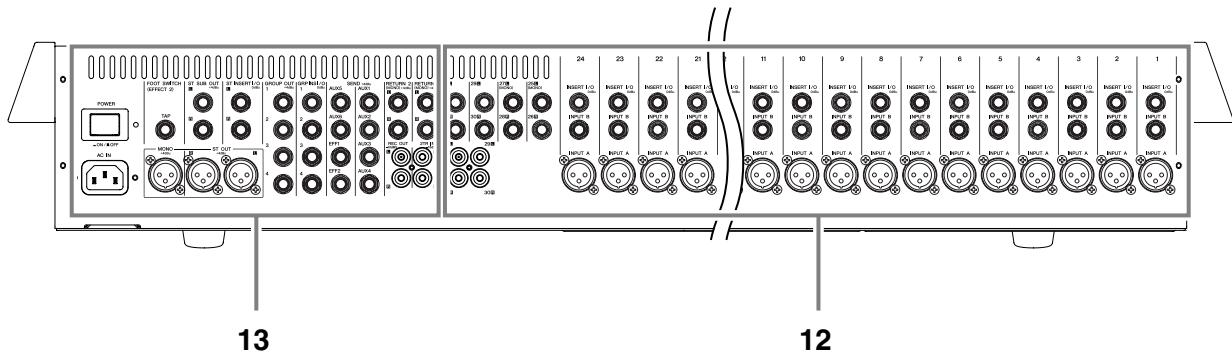
チャンネルコントロール部

- 1 モノラルチャンネルセクション (P10)
- 2 ステレオチャンネルセクション (P10)

マスターコントロール部

- 3 ST/MONO セクション (P13)
- 4 GROUP セクション (P14)
- 5 SEND セクション (P14)
- 6 RETURN セクション (P15)
- 7 内蔵デジタルエフェクトセクション (P16)
- 8 メーター / PHONES セクション (P17)
- 9 2TR 入力セクション (P17)
- 10 トークバックセクション (P18)
- 11 LAMP 端子 (P18)

リアパネル



* 本書中のイラストはすべて MG32/14FX です。

リア入出力部

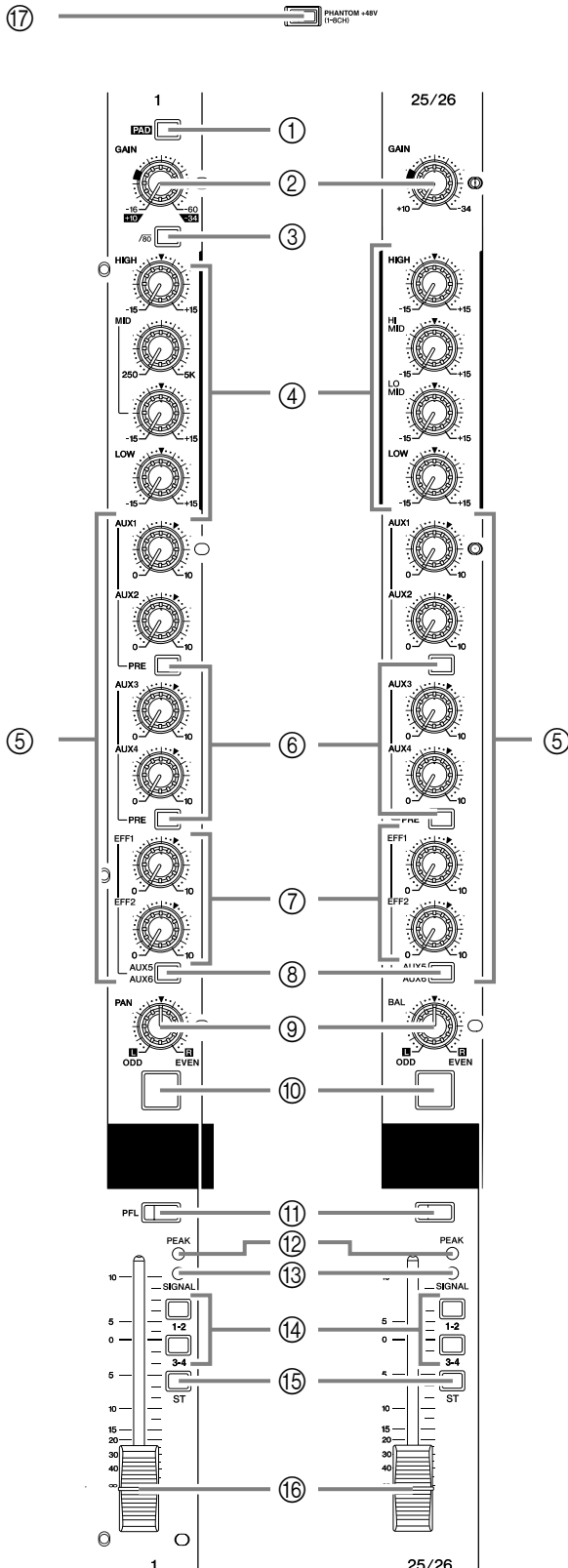
- 12 チャンネル入出力セクション (P19)
- 13 マスター入出力セクション (P20)

チャンネルコントロール部

■ モノラルチャンネルセクション ステレオチャンネルセクション

モノラルチャンネル
1 ~ 24 (MG32/14FX)
1 ~ 16 (MG24/14FX)

ステレオチャンネル
25/26 ~ 31/32 (MG32/14FX)
17/18 ~ 23/24 (MG24/14FX)



① PAD スイッチ

スイッチをオン にすると、入力信号のレベルを 26 dB 減衰させます。

② GAIN コントロール

入力信号のレベルに応じて感度を調整します。信号の最大入力時にピークインジケータ⑫が点灯する程度に設定すると、S/N とダイナミックレンジのバランスがとれた良好な状態になります。モノラルチャンネルは、PAD スイッチ ① がオフ のときに $-60\text{ dBu} \sim -16\text{ dBu}$ の範囲を調整し、PAD スイッチがオン のときに $-34\text{ dBu} \sim +10\text{ dBu}$ の範囲を調整します。ステレオチャンネルは、 $-34\text{ dBu} \sim +10\text{ dBu}$ の範囲を調整します。

③ $\sqrt{80}$ (ハイパスフィルター) スイッチ

ハイパスフィルターのオン/オフを切り替えます。スイッチをオン にするとハイパスフィルターがオンになり、80 Hz 以下の周波数帯域を減衰させます。

④ イコライザーコントロール

・モノラルチャンネル
3 バンドイコライザーで、各チャンネルの HIGH (高域)、MID (中域)、LOW (低域) を調整します。つまみを“▼”の位置にするとフラットな特性になります。つまみを右に回すとその周波数帯域が増幅され、左に回すと減衰されます。各帯域のイコライザーのタイプ、基準周波数、最大可変幅は下記のとおりです。

帯域	タイプ	基準周波数	最大可変幅
HIGH	シェルピング	10 kHz	±15 dB
MID	ピーキング	250 Hz ~ 5 kHz (可変)	
LOW	シェルピング	100 Hz	

・ステレオチャンネル
4 バンドイコライザーで、各チャンネルの HIGH (高域)、HI-MID (中高域)、LO-MID (中低域)、LOW (低域) を調整します。つまみを“▼”の位置にするとフラットな特性になります。つまみを右に回すとその周波数帯域が増幅され、左に回すと減衰されます。各帯域のイコライザーのタイプ、基準周波数、最大可変幅は下記のとおりです。

帯域	タイプ	基準周波数	最大可変幅
HIGH	シェルピング	10 kHz	±15 dB
HI-MID	ピーキング	3 kHz	
LO-MID	ピーキング	800 Hz	
LOW	シェルピング	100 Hz	

⑤ AUX コントロール (1 ~ 6)

各チャンネルから AUX 1 ~ 6 バスに送られる信号のレベルをそれぞれ調整します。AUX 1 ~ 4 は、PRE スイッチ ⑥ でプリフェーダーまたはポストフェーダーに切り替えることができます。AUX 5、6 はポストフェーダー固定です。“▼”の位置を目安につまみを調整してください。

ステレオチャンネルの場合は、INPUT L (奇数チャンネル) と INPUT R (偶数チャンネル) の信号がミックスされて各 AUX バスへ送られます。

NOTE AUX 5、6 をご使用になるときは、AUX 5、AUX 6 スイッチ ⑧ をオン ■ にしてください。

⑥ PRE スイッチ

AUX 1～4 の信号取り出し位置を、プリフェーダーまたはポストフェーダーに切り替えます。切り替えは AUX 1 と 2、3 と 4 のペアで行ないます。スイッチをオン ■ にすると、プリフェーダー信号が送られ、スイッチをオフ ■ にすると、ポストフェーダー信号が送られます。

⑦ EFFECT コントロール

各チャンネルから EFFECT 1、2 バスに送られる信号のレベルを調整します。ポストフェーダー固定で、チャンネルフェーダーの設定に応じて信号のレベルが変化します。

ステレオチャンネルの場合は、L と R の信号がミックスされて EFFECT バスへ送られます。

NOTE AUX 5、AUX 6 スイッチ ⑧ がオン ■ のときは、AUX 5、6 バスのレベルを調整します。

⑧ AUX 5、AUX 6 スイッチ

ポストフェーダーの信号を、EFFECT 1、2 バスまたは AUX 5、6 バスのどちらへ送り出すかを切り替えます。スイッチをオン ■ にすると、信号は AUX 5、6 バスへ送られ、スイッチをオフ ■ にすると、信号は EFFECT 1、2 バスへ送られます。

⑨ PAN コントロール (モノラルチャンネル) BAL コントロール (ステレオチャンネル)

PAN コントロールは、各チャンネルの信号を、GROUP 1、3 (奇数) / 2、4 (偶数) バスまたは ST L、R バスのどの位置に定位させるかを決めます。

BAL コントロールは、左右チャンネルの音量バランスを決めます。INPUT L (奇数チャンネル) に入力された信号は GROUP 1、3 バスまたは ST L バスへ、INPUT R (偶数チャンネル) に入力された信号は GROUP 2、4 バスまたは ST R バスへ振り分けられます。

NOTE ステレオチャンネルで、L(MONO) の端子だけに信号を入力した場合は、BAL コントロールを PAN として利用します。

⑩ ON スイッチ

各チャンネルのオン/オフを切り替えます。ご使用になるチャンネルをオンにします。スイッチをオン ■ にすると、スイッチがオレンジ色に点灯します。スイッチをオフ ■ にすると、そのチャンネルに入力された信号は ST バス、GROUP バス、AUX バス、EFFECT バスに一切送られません。

NOTE

- PFL スイッチ ⑪ は、ON スイッチの影響は受けません。ON スイッチがオフ ■ の状態でも、各チャンネルの PFL 信号は、PHONES 端子からモニターできます。
- ノイズ減少のために、使用しないチャンネルの ON スイッチはオフ ■ にしておいてください。

⑪ PFL スイッチ (Pre-Fader Listen)

各チャンネルの信号を PFL バスに送り出すスイッチです。スイッチをオン ■ にすると、インジケータが点灯し、選択したチャンネルのフェーダー調整前の信号を PHONES 端子でモニターできます。

NOTE

- PFL の信号は、AFL の信号より優先して出力されます。
- 複数の PFL スイッチがオン ■ になっている場合は、それらがミックスされます。

⑫ PEAK インジケータ

イコライザ後のピークレベルを検出し、クリッピングの手前 3 dB に達すると赤く点灯します。

⑬ SIGNAL インジケータ

各チャンネルに信号が入力されると点灯します。

⑭ GROUP スイッチ

各チャンネルの信号を GROUP 1、2/3、4 バスに出力するアサインスイッチです。スイッチをオン ■ にした GROUP バスに信号が送られます。

NOTE ST スイッチ ⑮ の状態に関係なく、各 GROUP バスに出力できます。

⑮ ST スイッチ

各チャンネルの信号を ST バスに出力するアサインスイッチです。スイッチをオン ■ にすると、ST バスに信号が送られます。

⑯ チャンネルフェーダー

各チャンネルの出力信号のレベルを調節し、チャンネル間の音量バランスを調整します。

NOTE ノイズ減少のために、使用しないチャンネルのフェーダーは下げてください。

⑰ PHANTOM +48 V スイッチ

ファンタム電源を 8 チャンネルごとに一括してオン/オフにします。

MG32/14FX には、CH 1～8、CH 9～16、CH 17～24 用で 3 つ、MG24/14FX には、CH 1～8、CH 9～16 用で 2 つのスイッチがあります。コンデンサーマイクを使用するときは、そのチャンネルのスイッチをオン ■ にしてください。

NOTE スイッチをオン ■ にすると、XLR 端子の 2 番および 3 番ピンに DC+48 V が供給されます。

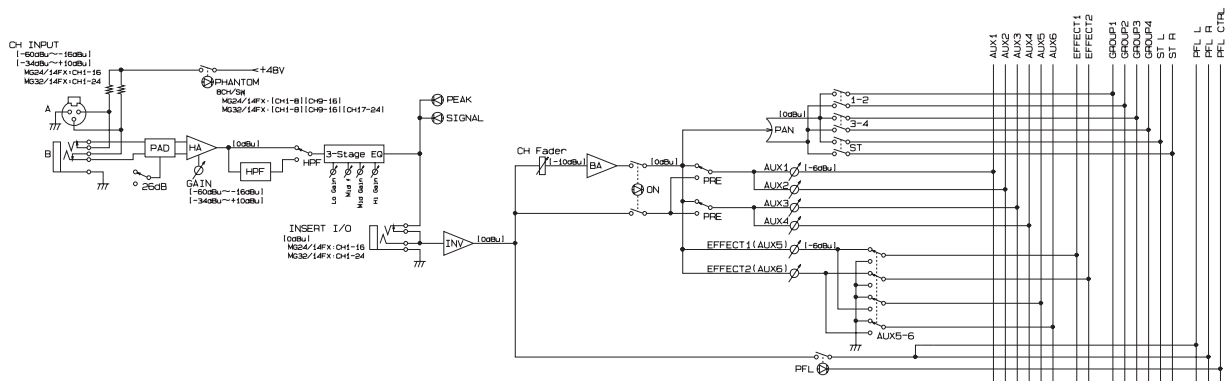


• ファンタム電源を使わないときは、必ずスイッチはオフ ■ にしておいてください。スイッチがオン ■ の状態でアンバランス型機器やトランスのセンターがアースされていない機器を接続すると、ハムや故障の原因になります。バランス型ダイナミックマイクは、スイッチをオン ■ の状態で接続しても問題ありません。

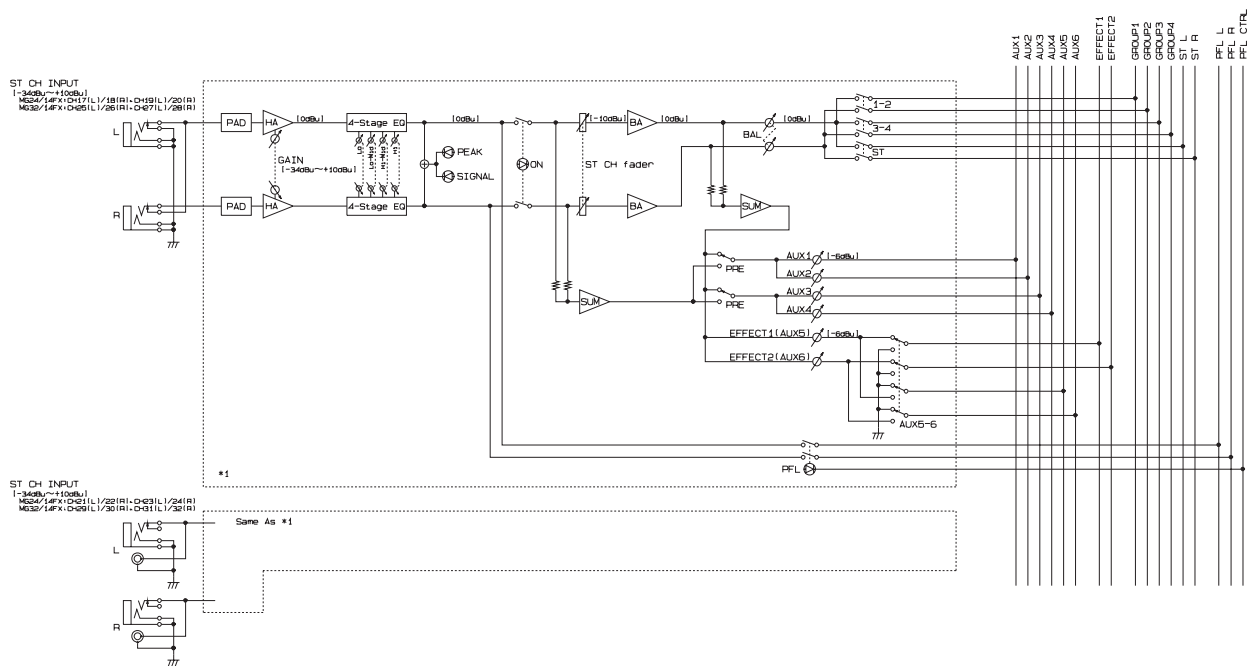
• スピーカー保護のために、ファンタム電源をオン/オフするときは、パワーアンプ(パワードスピーカー)の電源をオフにして行ってください。

各部の名称と機能

モノラルチャンネル



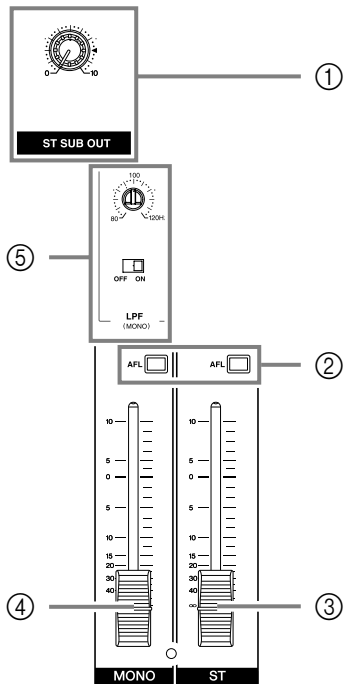
ステレオチャンネル



マスターコントロール部

■ ST/MONO セクション

メイン出力となる ST バスの信号、および ST バスの信号をモノラルにミックスした信号を個別に調整するセクションです。



① ST SUB OUT コントロール

ST バスから ST SUB OUT 端子 (P20 ⑧) に出力される信号のレベルを調整します。

NOTE ST SUB OUT コントロールの設定は、ST OUT 端子へ出力される信号のレベルには影響しません。

② AFL スイッチ (After-Fader Listen)

ST OUT/MONO 端子に出力される信号を、AFL バスに送り PHONES 端子でモニターできます。

③ ST マスターフェーダー

ST バスから ST OUT 端子 (P20 ⑨) に出力される信号のレベルを調整します。

④ MONO フェーダー

ST バスから MONO 端子 (P20 ⑩) にモノラル出力される信号のレベルを調整します。

⑤ LPF (MONO)

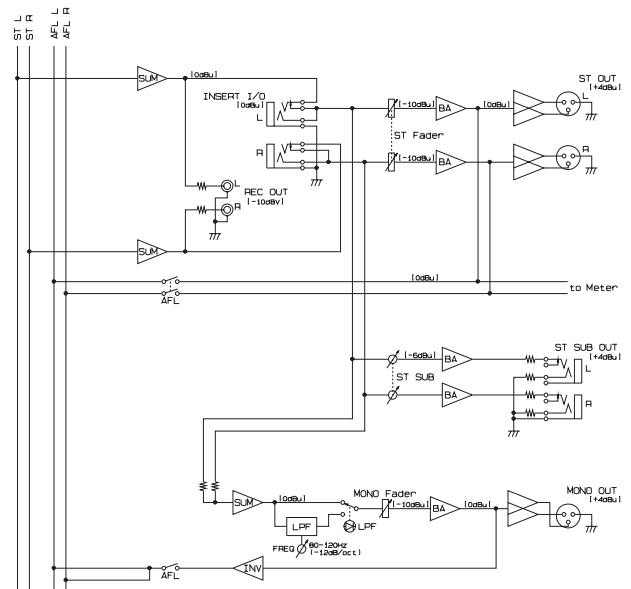
• LPF 切り替えスイッチ

ON を選択すると、MONO 端子から出力される信号に対して、ローパスフィルターが有効になります。周波数調整ダイヤルで設定したカットオフ周波数以上の信号を減衰させます。OFF を選択すると、ローパスフィルターは無効になります。

• 周波数調整ダイヤル

カットオフ周波数を 80~120 Hz の間で調整します。LPF 切り替えスイッチで ON を選択している場合に、この設定が有効になります。

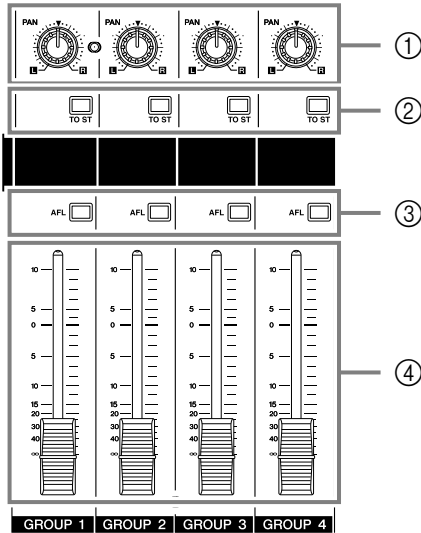
NOTE 調整にあたっては、マイナドライバーなどをご使用ください。



各部の名称と機能

■ GROUP セクション

GROUP 1 ~ 4 バスの信号を調整するセクションです。GROUP 1 ~ 4 バスの信号は、GROUP OUT 1 ~ 4 端子 (P20 ⑥) からそれぞれ出力されるほか、TO ST スイッチや AFL スイッチの設定に応じて、STバスや AFLバスに送ることができます。



① PAN コントロール

TO ST スイッチ ② をオン ■ にしているときに、GROUP 1 ~ 4 バスの信号を、ST L、R バスのどの位置に定位置させるかを決めます。

② TO ST スイッチ

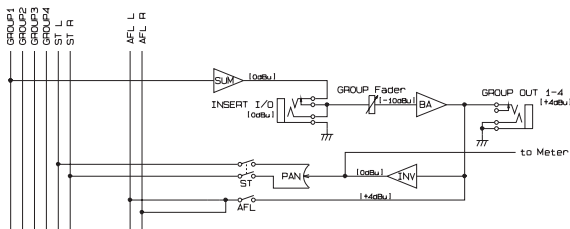
スイッチをオン ■ にすると、GROUP フェーダー ④ でレベル調整された信号が PAN コントロール ① を経由して、STバスへ送られます。

③ AFL スイッチ (After-Fader Listen)

GROUP OUT 1 ~ 4 端子に出力される信号を、AFL バスに送り PHONES 端子でモニターできます。

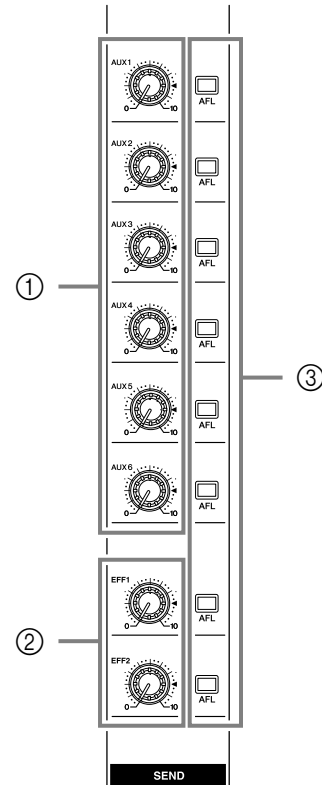
④ GROUP フェーダー (1 ~ 4)

GROUP OUT 1 ~ 4 端子に出力される信号のレベルをそれぞれ調整します。



■ SEND セクション

AUX 1 ~ 6 バスおよび EFFECT 1、2 バスの信号を調整するセクションです。AUX 1 ~ 6 バスおよび EFFECT 1、2 バスの信号は、AUX SEND 1 ~ 6 端子および EFFECT SEND 1、2 端子 (P20 ④) からそれぞれ出力されます。



① AUX コントロール (1 ~ 6)

AUX SEND 1 ~ 6 端子に出力される AUX 1 ~ 6 バスの信号のレベルを調整します。

② EFF コントロール (1、2)

EFF SEND 1、2 端子に出力される EFFECT 1、2 バスの信号のレベルを調整します。内蔵デジタルエフェクトに送られる信号のレベルも同時に調整します。

NOTE

AUX 5、AUX 6 スイッチ (P10 ⑧) をオン ■ にしたチャンネルの信号は AUX SEND 5、6 端子に出力され、スイッチをオフ ■ にしたチャンネルの信号は EFF 端子に出力されます。

③ AFL スイッチ (After-Fader Listen)

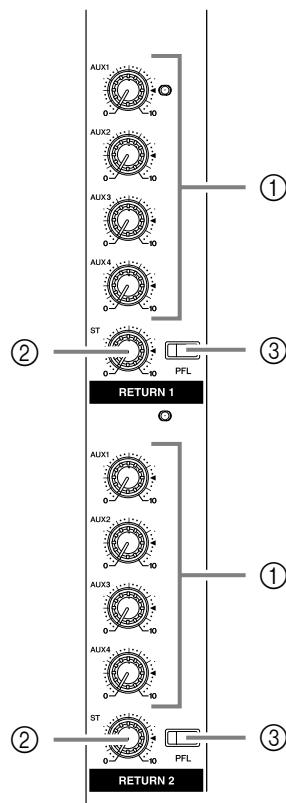
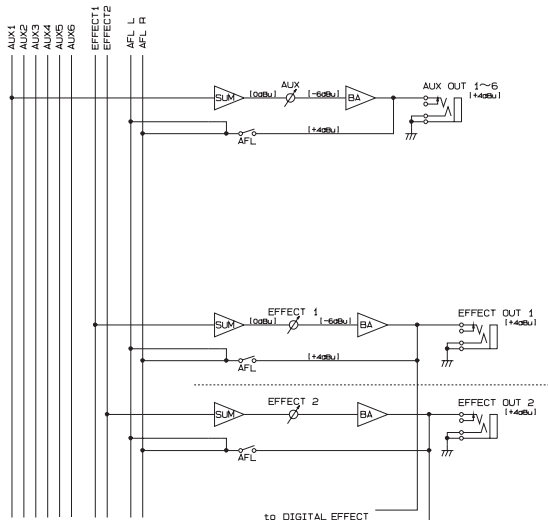
AUX SEND 1 ~ 6 端子および EFF SEND 1、2 端子に出力される信号を、AFL バスに送り PHONES 端子でモニターできます。

NOTE

EFF コントロール ② の AFL スイッチをオン ■ にすると、内蔵デジタルエフェクトに送られる信号を PHONES 端子でモニターできます。

■ RETURN セクション

2系統のリターン信号を調整するセクションです。RETURN 1、2 端子 (P20 ①) から入力された信号を、ST バスや AUX 1～4 バスへ送ることができます。



① AUX ミックスコントロール (1～4)

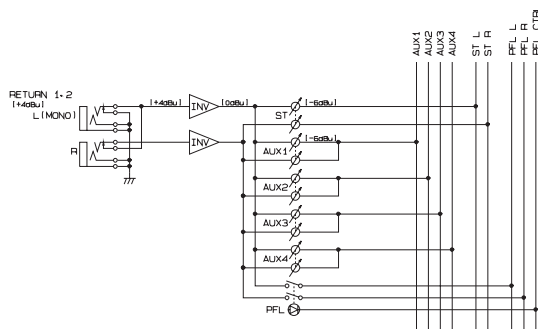
RETURN 1、2 端子から、AUX 1～4 バスに送られる信号のレベルを調整します。ステレオ信号を入力した場合は、L と R の信号がミックスされて各 AUX バスへ送られます。

② ST コントロール

RETURN 1、2 端子から、ST バスに送られる信号レベルを調整します。ステレオ信号を入力した場合は、L と R の信号がそれぞれ ST L、R バスに送られます。モノラル信号を入力した場合は、ST R バスにも ST L バスと同じ信号が送られます。

③ PFL スイッチ (Pre-Fader Listen)

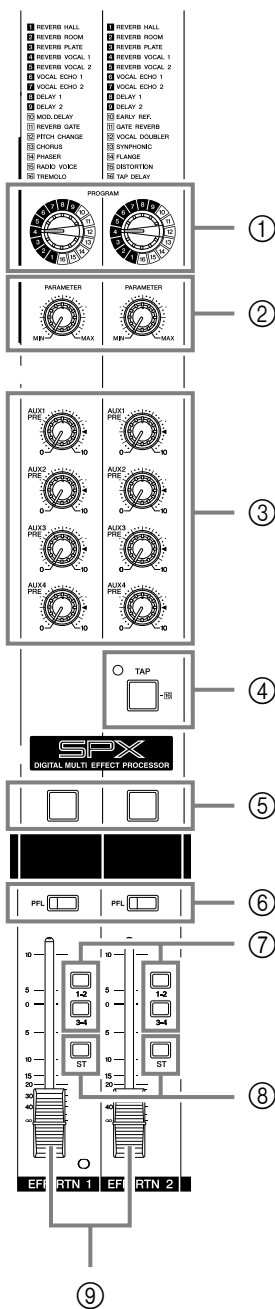
RETURN 1、2 端子からの入力信号を PFL バスに送り出すスイッチです。このスイッチをオン にすると、AUX ミックスコントロール(1～4)およびSTコントロール調整前の信号を、PHONES 端子でモニターできます。



各部の名称と機能

■ 内蔵デジタルエフェクトセクション

2系統の内蔵デジタルエフェクトをオン/オフし、エフェクトタイプを選択します。



① PROGRAM 選択ダイヤル

内蔵デジタルエフェクトのタイプを選択します。

NOTE

各エフェクトタイプの詳細については、P24をご参照ください。

② パラメーターコントロール

内蔵デジタルエフェクトのパラメーターを調整します。

NOTE

パラメーターの値は、エフェクトのタイプごとに保存されます。エフェクトのタイプを切り替えたときは、パラメーターコントロールの位置に関係なく、前回そのエフェクトで設定した値が有効になります。電源をオフ ■ にしても各エフェクトのパラメーターの値は保存されています。

③ AUX PRE コントロール (1 ~ 4)

AUX 1 ~ 4 バスに送られるエフェクト音のレベルを調整します。

④ TAP ボタン、インジケーター

EFFECT 2 で内蔵エフェクトタイプの [16] TAP DELAY を選択しているとき、ディレイタイムを任意に設定できます。タイミングを取りながら TAP ボタンを何度か押すと、その最後の 2 回の間隔に合わせてディレイタイムが設定されます。

設定したタイムは、電源を OFF にしても保持されます。スイッチ横のインジケーターは、エフェクトタイプを TAP DELAY に設定しているとき、ディレイタイムに同期して点滅します。

⑤ ON スイッチ

内蔵デジタルエフェクトのオン/オフを切り替えます。

⑥ PFL スイッチ (Pre-Fader Listen)

内蔵デジタルエフェクトの信号を PFL バスへ送り出すスイッチです。

スイッチをオン ■ にすると、EFFECT RTN フェーダー (1,2) 調整前の信号を PHONES 端子でモニターできます。

NOTE

内蔵デジタルエフェクトがオフのときは、PFL バスに信号は送られません。

⑦ GROUP スイッチ (1-2、3-4)

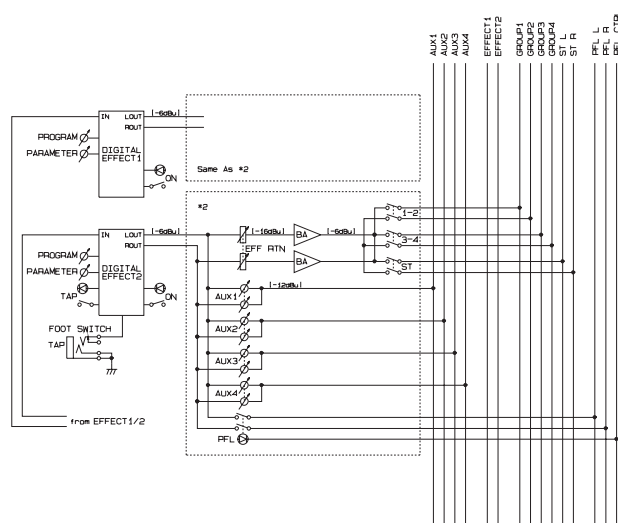
内蔵デジタルエフェクトの信号を GROUP 1、2/3、4 バスに送り出すスイッチです。

⑧ ST スイッチ

内蔵デジタルエフェクトの信号を ST バスに送り出すスイッチです。

⑨ EFFECT RTN フェーダー (1、2)

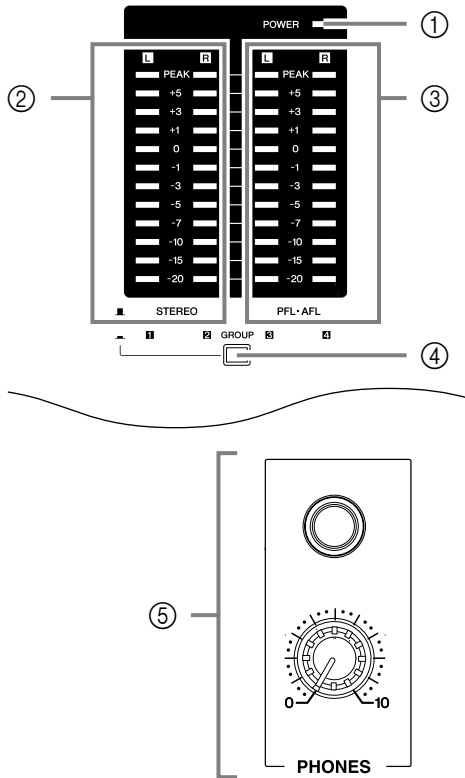
ST バスおよび GROUP バスに送られるエフェクト音のレベルを調整します。



■ メーター / PHONES セクション

GROUP 1～4 端子、ST 端子の信号のレベルを表示するレベルメーターです。

PFL-AFL レベルメーター ③ に表示される信号は、PHONES 端子でモニターできます。



① POWER インジケータ

本機の電源をオンにすると点灯します。

② STEREO レベルメーター

ST OUT 端子または GROUP OUT 1、2 端子に出力される信号のレベルを表示します。“0”の位置が規定レベルを示し、クリッピングレベルに近づくと PEAK が赤く点灯します。

③ PFL-AFL レベルメーター

PHONES 端子または GROUP OUT 3、4 端子に出力される信号のレベルを表示します。“0”の位置が規定レベルを示し、クリッピングレベルに近づくと PEAK が赤く点灯します。

NOTE

PFL の信号は、AFL の信号より優先して表示されま

④ GROUP スイッチ

スイッチをオン \blacksquare にすると、4 本のレベルメーターで GROUP OUT 1～4 端子に出力される信号のレベルを表示します。スイッチをオフ \blacksquare にすると、ST OUT 端子および PHONES 端子に出力される信号のレベルを表示します。

⑤ PHONES

・ PHONES 端子

フォーンタイプのアンバランス型のステレオ出力端子です。

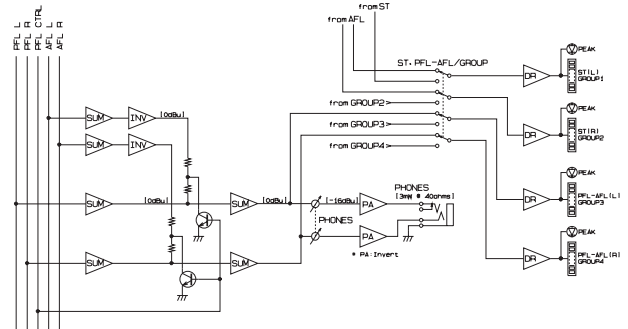
モニター用のヘッドフォンを接続します。

・ PHONES コントロール

PHONES 端子に出力される信号のレベルを調整します。

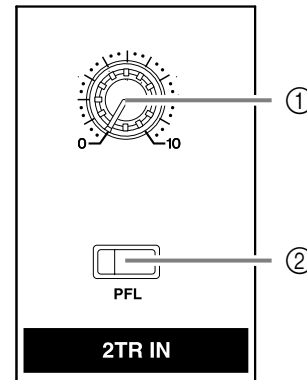
NOTE

PHONES 端子でモニターする信号は、PFL-AFL レベルメーター ③ に表示されます。



■ 2TR 入力セクション

2TR IN 端子 (P20 ②) から入力された信号を、調整するセクションです。

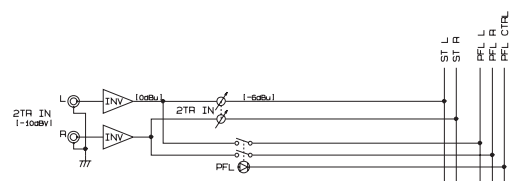


① 2TR IN コントロール

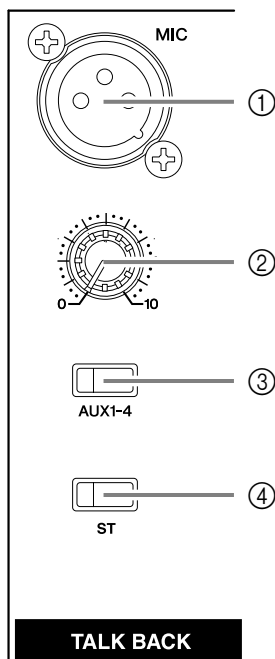
2TR IN 端子から ST バスへ送られる信号のレベルを調整します。

② PFL スイッチ (Pre-Fader Listen)

2TR IN 端子からの入力信号を PFL バスに送り出すスイッチです。スイッチをオン \blacksquare にすると、2TR IN コントロール調整前の信号を、PHONES 端子でモニターできます。



■ トークバックセクション



① MIC 端子

XLR タイプのアンバランス型入力端子です。
トークバック用のマイクを接続します。

NOTE この端子から PHANTOM 電源は供給されません。

② トークバックコントロール

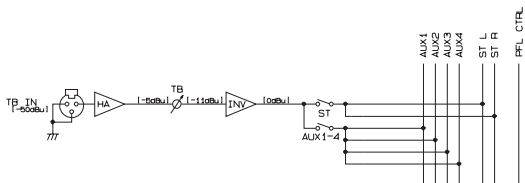
トークバックのレベルを調整します。

③ AUX スイッチ (1~4)

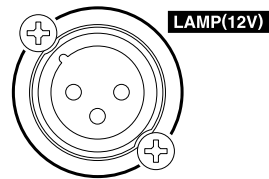
スイッチをオン \blacksquare にすると、MIC 端子から入力された信号が AUX 1~4 バスへ送られます。

④ ST スイッチ

スイッチをオン \blacksquare にすると、MIC 端子から入力された信号が ST バスへ送られます。



■ LAMP 端子



LAMP 端子

市販のランプを接続します。
XLR3 ピンタイプの出力端子です。

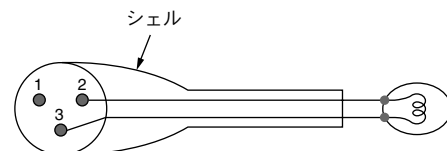
NOTE LAMP 端子に適合するランプの仕様は、AC12V または DC12V、最大 5W です。
2 番ピンと 3 番ピンに 12V が供給されます。(1 番ピンは、どこにも接続されていません。)

ランプを接続する前に、下記の注意を必ずお読みください。

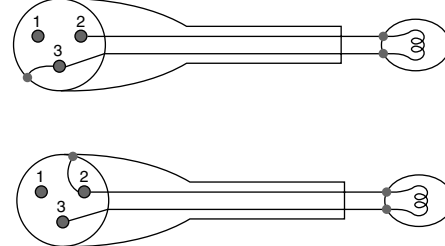


- 2 番ピンまたは 3 番ピンがシェル (ボディ) に接続されたランプは使用しないでください。異なった仕様のランプを接続すると、本機が故障する原因になります。Littlelite 社製 Gooseneck Lamp X-HI series を推奨します。

使用できるランプ



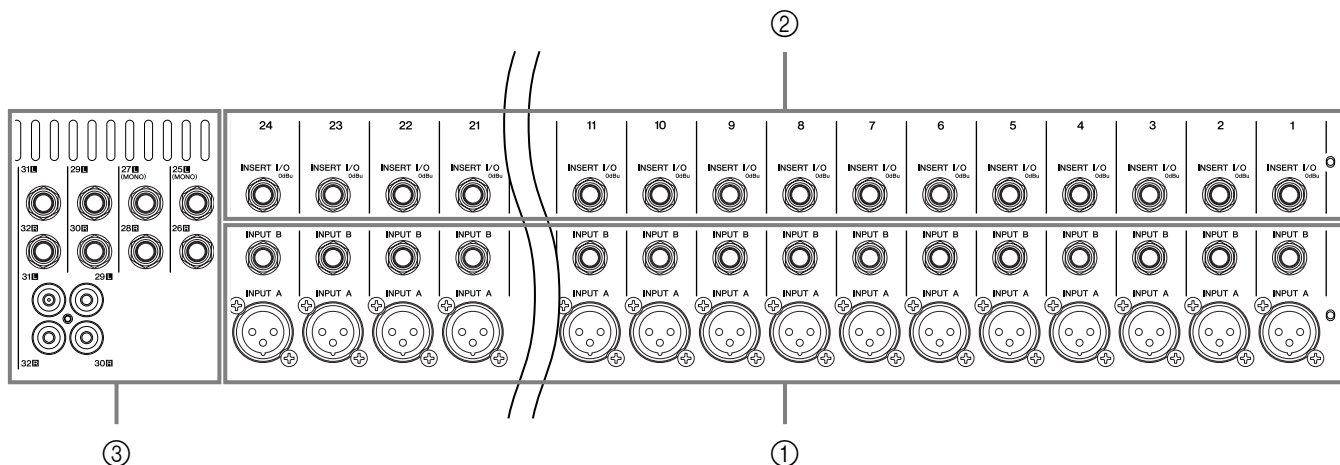
使用できないランプ



- LAMP 端子にトークバック用のマイクを接続しないでください。誤って接続すると、マイクが故障する原因になります。

リア入出力部

■ チャンネル入出力セクション



① モノラルチャンネル入力端子 (MG32/14FX:CH1 ~ 24、MG24/14FX:CH1 ~ 16)

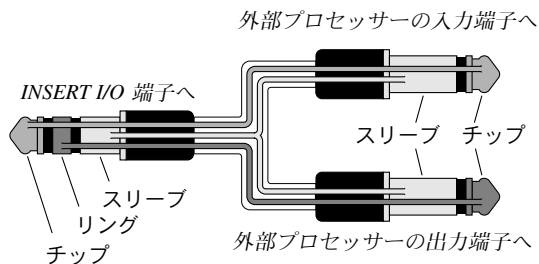
- INPUT A
XLR タイプのバランス型入力端子です。
- INPUT B
フォーンタイプのバランス型入力端子です。
アンバランス型フォーン端子を接続することもできます。

NOTE ひとつのインプットチャンネルでINPUT AとINPUT Bを同時に使用することはできません。両方のINPUTへ同時に入力した場合、INPUT Bが優先されます。

② INSERT I/O 端子

フォーンタイプのアンバランス型入出力端子です。お手持ちのグラフィックイコライザーやコンプレッサー、ノイズフィルターなどを各チャンネルに接続します。この端子は、TRS (チップ、リング、スリーブ) 型のフォーン端子を利用した双方向の接続となっています。

NOTE 接続には下図のような特殊なインサートケーブルが必要です。別売のヤマハインサートケーブル YIC025/050/070 などをご使用ください。



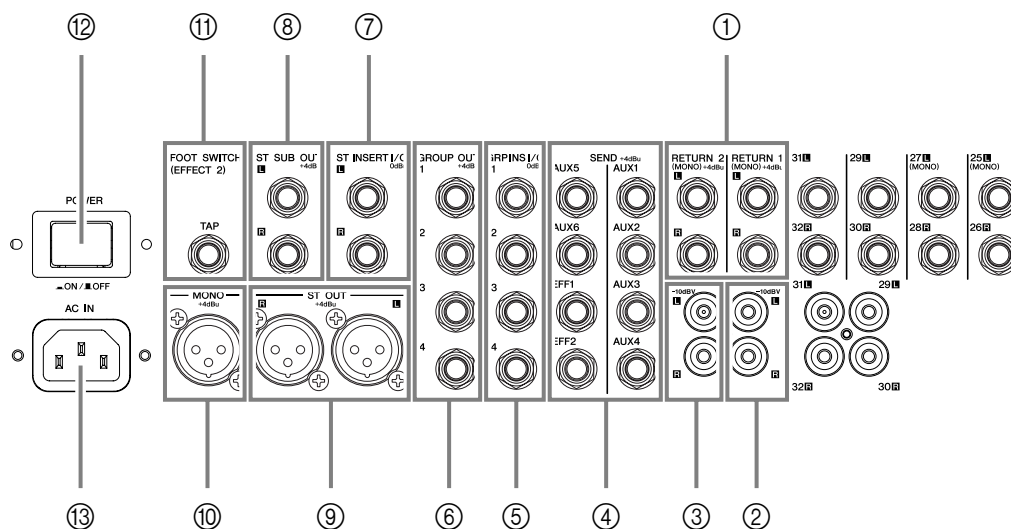
③ ステレオチャンネル入力端子 (MG32/14FX:CH25/26、27/28、29/30、31/32) (MG24/14FX:CH17/18、19/20、21/22、23/24)

- フォーン端子
(MG32/14FX:CH25/26、27/28、29/30、31/32)
(MG24/14FX:CH17/18、19/20、21/22、23/24)
フォーンタイプのアンバランス型入力端子です。音源をL (奇数チャンネル) とR (偶数チャンネル) のステレオで入力します。
- RCA ピン端子
(MG32/14FX:CH29/30、31/32)
(MG24/14FX:CH21/22、23/24)
RCA ピンタイプのアンバランス型入力端子です。音源をL (奇数チャンネル) とR (偶数チャンネル) のステレオで入力します。

- NOTE**
- ひとつのインプットチャンネルでフォーン端子とRCAピン端子を同時に使用することはできません。どちらか一方の端子だけをご使用ください。
 - フォーン端子 (MG32/14FX:CH25/26、27/28、MG24/14FX:CH17/18、19/20) は、L (MONO) 端子だけに接続した場合、R端子にもL端子と同じ信号が流れ、モノラル入力となります。

各部の名称と機能

■ マスター入出力セクション



① RETURN 端子 (1, 2)

フォーンタイプのアンバランス型入力端子です。この端子から入力された信号は、STバスとAUX1～4バスへ送られます。通常はリバーブやディレイなど外部エフェクターからのリターン信号を受けるのに使用します。

NOTE

補助のステレオ入力としても利用できます。L (MONO) 端子だけに接続した場合は、R端子にもL端子と同じ信号が流れ、モノラル入力となります。

② 2TR IN 端子

RCAピンタイプのアンバランス型入力端子です。この端子から入力された信号は、STバスへ送られます。ステレオの音源を入力します。CDプレーヤーやDATデッキなどのステレオ音源をダイレクトに接続し、モニターする場合に使用します。

③ REC OUT (L, R) 端子

RCAピンタイプのアンバランス型出力端子です。外部のレコーダーなどを接続します。ST OUT端子から出力される信号と同じ信号を録音するための端子です。

NOTE

この端子から出力される信号は、STマスターフェーダーの設定およびINSERT I/O端子の影響を受けません。録音レベルの調整はレコーダー側で行なってください。

④ SEND 端子

•AUX (1～6)
フォーンタイプのインピーダンスバランス型出力端子です。AUX1～6バスの信号が、それぞれの端子に出力されます。モニターシステムやエフェクターなどを接続します。

•EFF (1, 2)

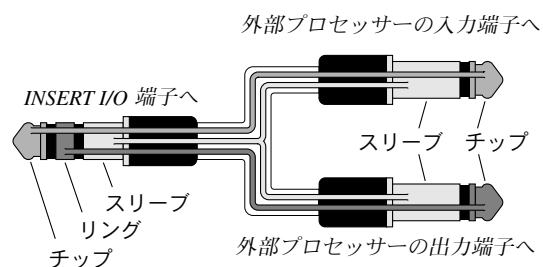
フォーンタイプのインピーダンスバランス型出力端子です。EFFECTバスの信号が出力されます。外部エフェクターなどを接続します。

⑤ GROUP INS I/O 端子 (1～4)

フォーンタイプのアンバランス型入出力端子です。お手持ちのグラフィックイコライザーやコンプレッサー、ノイズフィルターなどを各チャンネルに接続します。この端子は、TRS (チップ、リング、スリーブ) 型のフォーン端子を利用した双方向の接続となっています。

NOTE

接続には下図のような特殊なインサートケーブルが必要です。別売のヤマハインサートケーブル YIC025/050/070 などをご使用ください。



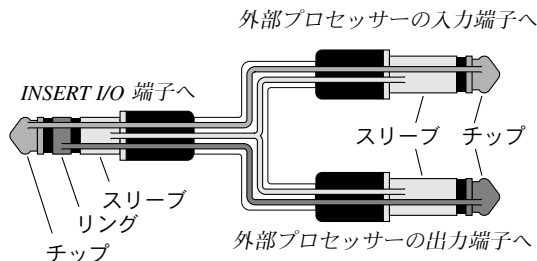
⑥ GROUP OUT (1～4) 端子

フォーンタイプのインピーダンスバランス型出力端子です。GROUP1～4バスの信号が出力されます。MTRや外部ミキサーの入力端子などに接続します。

⑦ ST INSERT I/O 端子 (L, R)

フォーンタイプのバランス型入出力端子です。お手持ちの外部エフェクターやサブミキサーを接続します。この端子は、TRS (チップ、リング、スリーブ) 型のフォーン端子を利用した双方向の接続となっています。

NOTE 接続には下図のような特殊なインサートケーブルが必要です。別売のヤマハインサートケーブル YIC025/050/070 などをご使用ください。



⑧ ST SUB OUT 端子

フォーンタイプのインピーダンスバランス型出力端子です。マスターコントロール部の ST SUB OUT コントロールでレベル調整したミックス信号が L と R のステレオで出力されます。外部ミキサーや拡張 SR システムなどを接続します。

NOTE この端子から出力される信号は、ST マスターフェーダーの設定の影響を受けません。

⑨ ST OUT (L, R) 端子

XLR タイプのバランス型出力端子です。ST マスターフェーダー (P13 ③) でレベル調整した信号が L と R のステレオで出力されます。メインスピーカーを駆動するパワーアンプなどを接続します。

⑩ MONO 端子

XLR タイプのバランス型出力端子です。MONO フェーダー (P13 ④) でレベル調整した信号が出力されます。ST パスの信号がミックスされモノラルで出力されます。サブウーハースピーカーや拡張 SR システムなどに接続します。

⑪ FOOT SWITCH TAP 端子

フォーンタイプの入力端子です。フットスイッチを接続します。EFFECT 2 で内蔵エフェクトタイプを [16] TAP DELAY に設定しているとき、オプション (別売) のヤマハ FC5 フットスイッチを端子に接続し、ディレイタイムを任意に設定できます。タイミングを取りながらフットスイッチを何度か踏み込むと、その最後の 2 回の間隔に合わせてディレイタイムが設定されます。

⑫ POWER スイッチ

電源の ON/OFF を切り替えるスイッチです。POWER スイッチを押す (■) と電源が入ります。もう一度押す (■) と電源が切れます。

⑬ AC IN 端子

付属の AC コードのソケット側を接続します。

■ 端子接続の極性

INPUT A, ST OUT, MONO	ピン 1: グラウンド ピン 2: ホット (+) ピン 3: コールド (-)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>INPUT</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>OUTPUT</p> </div> </div>
MIC (トークバック)	ピン 1: グラウンド ピン 2: ホット (+) ピン 3: グラウンド	<p>INPUT</p>
INPUT B, GROUP OUT, AUX SEND (1 ~ 6), EFF SEND (1, 2), ST SUB OUT (*)	チップ: ホット (+) リング: コールド (-) スリーブ: グラウンド	<p>リング</p> <p>スリーブ チップ</p>
INSERT I/O, GROUP INS I/O, ST INSERT I/O	チップ: Output リング: Input スリーブ: グラウンド	
PHONES	チップ: L リング: R スリーブ: グラウンド	<p>スリーブ チップ</p>
ステレオチャンネル入力端子, RETURN (1, 2)	チップ: ホット スリーブ: グラウンド	
ステレオチャンネル入力端子, 2TR IN, REC OUT		<p>スリーブ チップ</p>

(*) これらの端子に、モノラルタイプのフォーン端子を使用することもできます。その場合は、アンバランスになります。

付録

仕様

■ 一般仕様

周波数特性 (Master Output)	20 Hz ~ 20 kHz +1 dB、-3 dB @+4 dBu (*), 600 Ω (GAIN コントロール=最小レベル)
全高調波歪率 (Master Output)	≤0.1 % (THD+N) @+14 dBu, 20 Hz ~ 20 kHz, 600 Ω (GAIN コントロール=最大レベル)
ハム & ノイズ (20 Hz~20 kHz) *1 Input GAIN = Maximum Input PAD = OFF Input sensitivity = -60 dBu	-128 dBu 入力換算ノイズ (CH1 ~ 24 (MG32/14FX) / CH1 ~ 16 (MG24/14FX))
	-99 dBu 残留ノイズ (ST, MONO OUT, AUX, EFFECT, GROUP OUT)
	-83 dBu (87 dB S/N) ST, MONO, GROUP マスターフェーダー=ノミナル、全チャンネルアサインスイッチ= OFF
	-78 dBu (82 dB S/N) AUX マスターコントロール=ノミナル、全チャンネル ミックスコントロール=最小レベル
	-64 dBu (68 dB S/N) ST、GROUP マスターフェーダー & 1チャンネルフェーダー=ノミナル (CH1 ~ 24 (MG32/14FX) / CH1 ~ 16 (MG24/14FX))
最大電圧ゲイン *2	60 dB CH IN → CH INSERT OUT 84 dB CH IN → GROUP OUT/ST OUT (CH to ST) 94 dB CH IN → ST OUT (GROUP to ST) 70 dB CH IN → GROUP INSERT OUT、ST INSERT OUT (CH to ST) 62.2 dB CH IN → REC OUT (CH to ST) 76 dB CH IN → AUX SEND (PRE) 86 dB CH IN → AUX SEND (POST) /EFF SEND 80 dB CH IN → ST SUB OUT (CH to ST) 58 dB ST CH IN → GROUP OUT/ST OUT (ST CH to ST) 47 dB ST CH IN → AUX SEND (PRE) 57 dB ST CH IN → AUX SEND (POST) /EFF SEND 16 dB RETURN → ST OUT 9 dB RETURN → AUX SEND 27.8 dB 2TR IN → ST OUT
モノラル、ステレオインプットゲインコントロール	44 dB 可変
モノラルハイパスフィルター	80 Hz 12 dB/octave
チャンネル入力 PAD	0 dB/26 dB
クロストーク (1 kHz)	-70 dB 入力チャンネル間 -70 dB 入出力チャンネル間 (CH INPUT)
モノラル入力チャンネルイコライザー特性最大可変幅 *3	±15 dB HIGH 10 kHz シェルビングタイプ MID 0.25 ~ 5 kHz ピーキングタイプ LOW 100 Hz シェルビングタイプ
ステレオ入力チャンネルイコライザー特性最大可変幅 *3	±15 dB HIGH 10 kHz シェルビングタイプ HI-MID 3 kHz ピーキングタイプ LO-MID 800 Hz ピーキングタイプ LOW 100 Hz シェルビングタイプ
内蔵デジタルエフェクト	エフェクト 1 : 16 種類、パラメーターコントロール エフェクト 2 : 16 種類、パラメーターコントロール、 TAP DELAY コントロール、フットスイッチ (TAP)
MONO ローパスフィルター	80 ~ 120 Hz 12 dB/octave
モノラル、ステレオインプットピークインジケータ	各チャンネル、イコライザーの後段において、信号レベルが +17 dBu に達すると赤く点灯
モノラル、ステレオインプットシグナルインジケータ	各チャンネル、イコライザーの後段において、信号レベルが -10 dBu に達すると緑に点灯
レベルメーター	12 ポイント LED × 4 [ステレオ (L, R)、PFL/AFL、GROUP (1~4)] ピーク時 : 赤のインジケータ +5、+3、+1、0 : 黄のインジケータ -1、-3、-5、-7、-10、-15、-20 : 緑のインジケータ
ファンタム電源 +48 VDC (バランス入力)	PHANTOM +48 V スイッチ= ON で 8 チャンネルごとに供給
付属品	電源コード、取扱説明書、保証書
オプション	FC5 (フットスイッチ)
ランプ端子	XLR-3-31 type (2-3 pin 間に AC12 V を供給、最大 5 W) 詳細は、18 ページ参照
電源	100 V AC 50/60 Hz
消費電力	MG32/14FX:120 W、MG24/14FX:100 W
最大外形寸法 (W × H × D)	MG32/14FX:W1027 × H140 × D551 mm、MG24/14FX:W819 × H140 × D551 mm
質量	MG32/14FX:22 kg、MG24/14FX:18.5 kg

* 0 dBu=0.775 V、0 dBV=1 V とする

*1 Rs=150 ohms

@12.7 kHz、-6 dB/oct. のローパスフィルターにて測定 (@20 kHz、-∞ dB/oct. フィルターに相当)

*2 PAN/BAL 左か右へ回す

*3 シェルビングタイプのターンオーバー / ロールオフ周波数 : 最大可変幅に対し 3 dB 下がったポイント

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

MG32/14FX, MG24/14FX

■ 入力仕様

入力端子名称	PAD	ゲイン	入力インピーダンス	適合インピーダンス	感度* ¹	規定レベル	最大ノンクリップレベル	端子仕様
CH INPUT (A、B) (MG32/14FX:CH1 ~ 24) (MG24/14FX:CH1 ~ 16)	0	-60	3 k Ω	50 ~ 600 Ω マイク 600 Ω ライン	-80 dBu (0.078 mV)	-60 dBu (0.775 mV)	-40 dBu (7.75 mV)	A:XLR-3-31 タイプ (バランス型) B: フォーンジャック (TRS) (バランス型 [T: ホット、R: コールド、 S: グラウンド])
	26				-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155 mV)	
	0	-16			-36 dBu (12.3 mV)	-16 dBu (123 mV)	+4 dBu (1.23 V)	
	26				-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45 V)	+30 dBu (24.5 V)	
ST CH INPUT (MG32/14FX:CH25(L)/26(R) ~ CH31(L)/32(R)) (MG24/14FX:CH17(L)/18(R) ~ CH23(L)/24(R))		-34	10 k Ω	600 Ω ライン	-54 dBu (1.55 mV)	-34 dBu (15.5 mV)	-14 dBu (155 mV)	フォーンジャック (アンバランス型) RCA ピックジャック* ²
		+10			-10 dBu (245 mV)	+10 dBu (2.45 V)	+30 dBu (24.5 V)	
ST INSERT IN [L、R] GROUP INSERT IN (1~4)			10 k Ω	600 Ω ライン	-10 dBu (245 mV)	0 dBu (0.775V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーンジャック (TRS) (アンバランス型) [T: アウト、R: イン、 S: グラウンド])
CH INSERT IN (MG32/14FX:CH1 ~ 24) (MG24/14FX:CH1 ~ 16)			10 k Ω	600 Ω ライン	-20 dBu (77.5 mV)	0 dBu (0.775 V)	+20 dBu (7.75 V)	
RETURN (1、2) (L、R)			10 k Ω	600 Ω ライン	-12 dBu (195 mV)	+4 dBu (1.23 V)	+24 dBu (12.3 V)	フォーンジャック (TRS) (アンバランス型)
TALK BACK			10 k Ω	50 ~ 600 Ω マイク	-66 dBu (0.388 mV)	-50 dBu (2.45 mV)	-30 dBu (24.5 mV)	XLR-3-31 タイプ (アンバランス型)
2TR IN (L、R)			10 k Ω	600 Ω ライン	-26 dBV (50.1 mV)	-10 dBV (316 mV)	+10 dBV (3.16 V)	RCA ピンジャック

* 0 dBu=0.775 V、0 dBV=1 V とする

*¹ 入力感度：最大ゲイン測定時に定格出力が得られる最小レベル*² MG32/14FX: CH29(L)/30(R)、CH31(L)/32(R)、MG24/14FX: CH21(L)/22(R)、CH23(L)/24(R)

■ 出力仕様

出力端子名称	出力インピーダンス	適合インピーダンス	規定レベル	最大ノンクリップレベル	端子仕様
ST OUT (L、R) MONO	75 Ω	600 Ω ライン	+4 dBu (1.23 V)	+24 dBu (12.3 V)	XLR-3-32 タイプ (バランス型)
GROUP OUT (1 ~ 4) AUX SEND (1 ~ 6)	150 Ω	600 Ω ライン	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーンジャック (TRS) (インピーダンスバランス型 [T: ホット、R: コールド、 S: グラウンド])
ST SUB OUT (L、R) EFF SEND (1、2)	150 Ω	10 k Ω ライン	+4 dBu (1.23 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーンジャック (TRS) (インピーダンスバランス型 [T: ホット、R: コールド、 S: グラウンド])
REC OUT (L、R)	600 Ω	10 k Ω ライン	-10 dBV (316 mV)	+10 dBV (3.16 V)	RCA ピンジャック
CH INSERT OUT (MG32/14FX:CH1 ~ 24) (MG24/14FX:CH1 ~ 16)	150 Ω	10 k Ω ライン	+0 dBu (0.775 V)	+20 dBu (7.75 V)	フォーンジャック (TRS) (アンバランス型 [T: アウト、R: イン、 S: グラウンド])
GROUP INSERT OUT (1 ~ 4) ST INSERT OUT (L、R)					
PHONES	100 Ω	40 Ω フォーン	3 mW	75 mW	ステレオフォーンジャック

* 0 dBu=0.775 V、0 dBV=1 V とする

■ デジタルエフェクトタイプリスト

・ EFFECT 1、2 共通

No.	タイプ	エフェクト内容	パラメーターコントロール	
			パラメーター	可変範囲
1	REVERB HALL	コンサートホールなどの広い空間をシミュレートした残響音です。	リバーブタイム	0.3 ~ 10.0 s
2	REVERB ROOM	小さな部屋の空間をシミュレートした残響音です。	リバーブタイム	0.3 ~ 3.2 s
3	REVERB PLATE	鉄板エコーのシミュレーションです。硬めの残響感が得られます。	リバーブタイム	0.3 ~ 10.0 s
4	REVERB VOCAL 1	ボーカルに適したリバーブです。	リバーブタイム	0.3 ~ 10.0 s
5	REVERB VOCAL 2			
6	VOCAL ECHO 1	ボーカルに適したエコーです。	ディレイタイム	0 ~ 800 ms
7	VOCAL ECHO 2			
8	DELAY 1	信号を遅延させるいわゆるディレイエフェクトです。	ディレイタイム	0 ~ 800 ms
9	DELAY 2			

・ EFFECT 1

10	MOD. DELAY	モジュレーション付きのモノラルディレイです。	ディレイタイム	0 ~ 800 ms
11	REVERSE GATE	逆回転のような初期反射音を使ったエフェクトです。	ルームサイズ	0.1 ~ 10.0
12	PITCH CHANGE	入力信号のピッチ（音程）をかえるエフェクトです。	ピッチ	-12 ~ +12
13	CHORUS	信号のディレイタイムを変化させて音に厚みを加えます。	デプス	0 ~ 100 %
14	PHASER	音の位相を変え、うねりが得られるエフェクトです。	モジュレーション周波数	0.05 ~ 4.00 Hz
15	RADIO VOICE	AM ラジオ風のローファイな音色が得られるエフェクトです。	ドライブ	0 ~ 100
16	TREMOLO	信号がゆれるような効果が得られるエフェクトです。	モジュレーション周波数	0.05 ~ 10.00 Hz

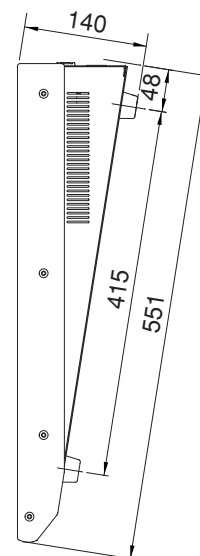
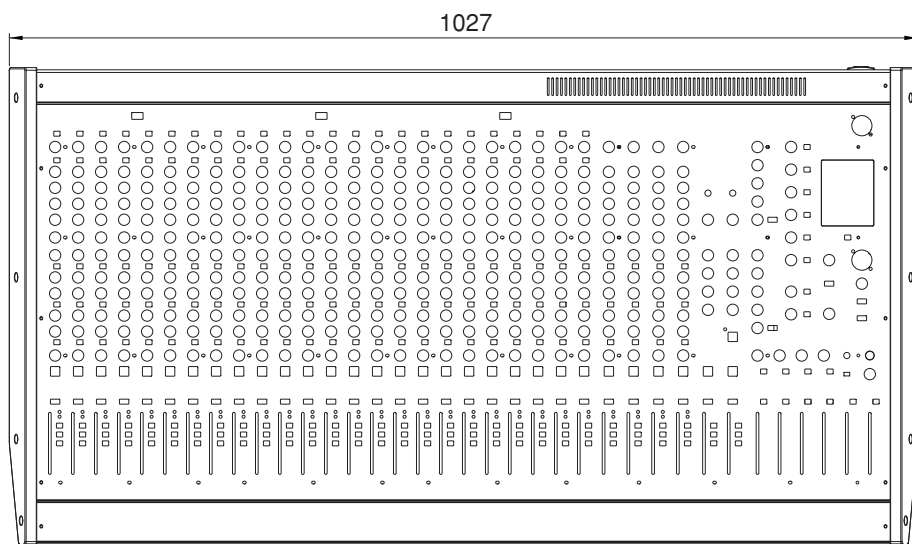
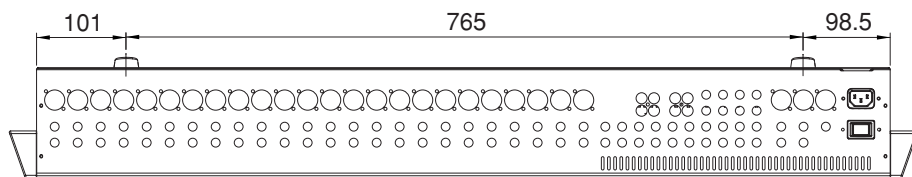
・ EFFECT 2

10	EARLY REF.	初期反射音を変化させて得られるエフェクトです。音に厚みを加えたり、エコー的な効果を付けたりできます。	ルームサイズ	0.1 ~ 10.0
11	GATE REVERB	残響音をカットして得られるエフェクトです。	ルームサイズ	0.1 ~ 5.0
12	VOCAL DOUBLER	二人でボーカルを歌っているような効果が得られます。	ファインピッチ	0 ~ 50
13	SYMPHONIC	音を多重化したエフェクトで豊かな厚みのある響きになります。	デプス	0 ~ 100 %
14	FLANGE	音色が音程感を持ったような効果が得られます。倍音を多く含んだ音に効果的です。	モジュレーション周波数	0.05 ~ 4.00 Hz
15	DISTORTION	音を歪ませるいわゆるディストーションです。	ドライブ	0 ~ 100
16	TAP DELAY	スイッチを実際に押した間隔を、ディレイタイムとして設定できるエフェクトです。フィードバック量は、PARAMETER コントロールで調節できます。LED がディレイタイムに同期して点滅します。	フィードバックゲイン	0 ~ 99 %
			ディレイタイム	100 ms (600 bpm) ~ 2690 ms (22.3 bpm) *

* LED は、256 ms (234.3 bpm) 未満では追従しません。

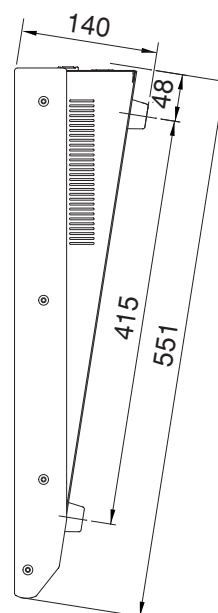
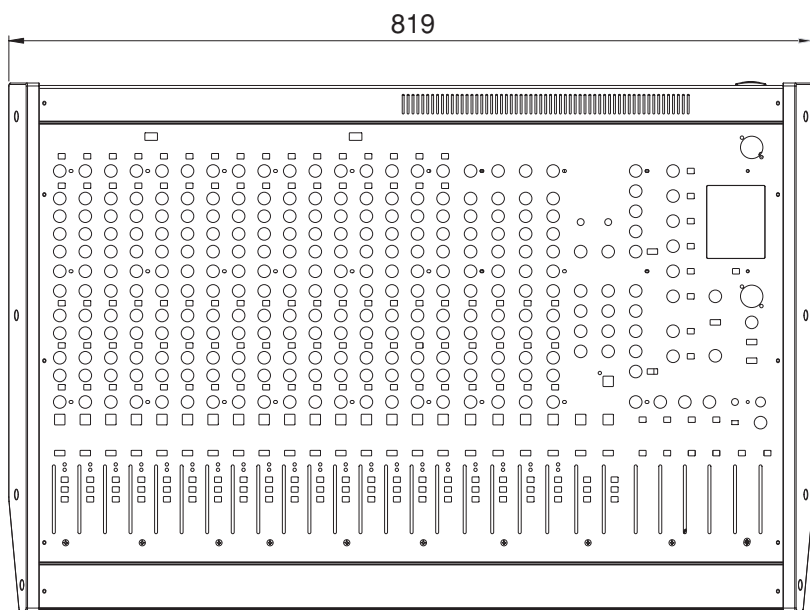
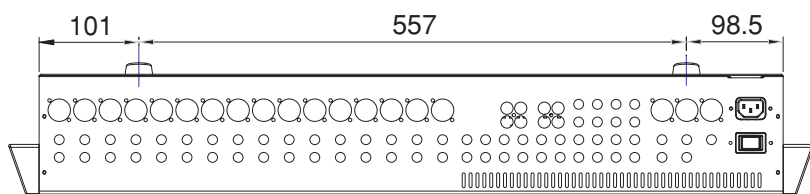
寸法図

■ MG32/14FX



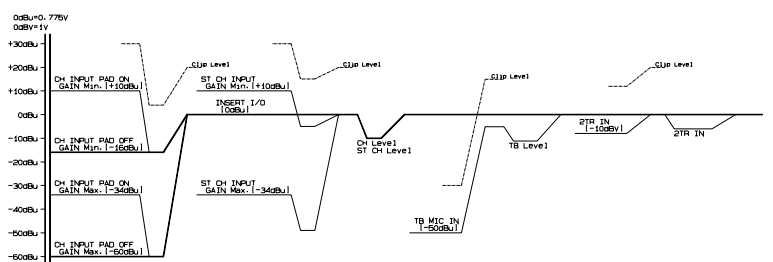
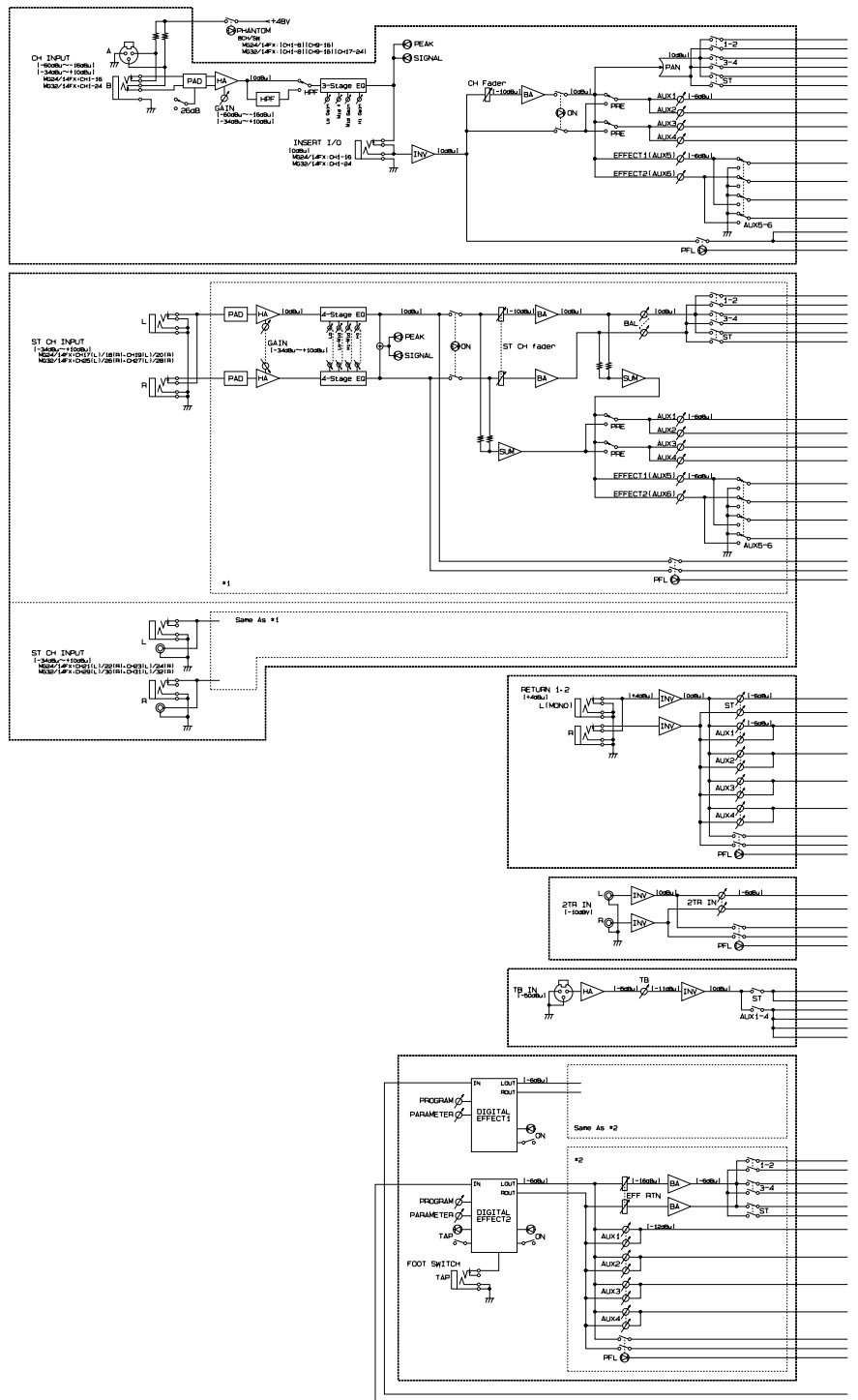
単位: mm

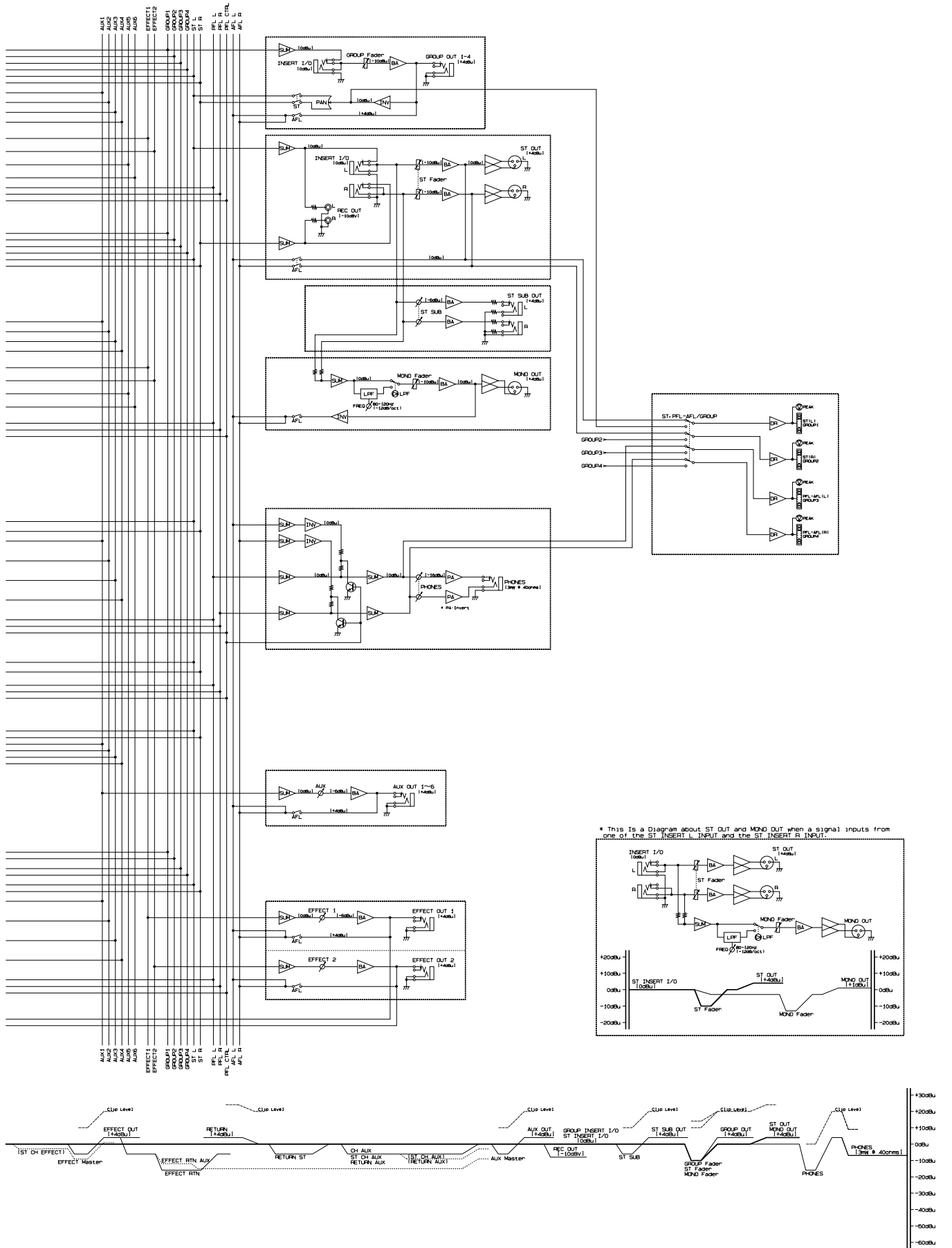
■ MG24/14FX



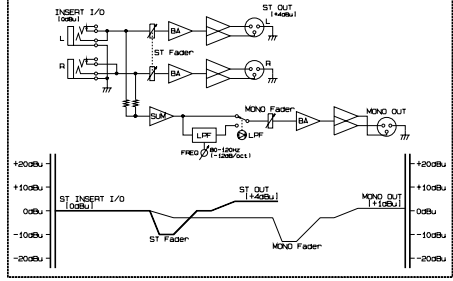
単位: mm

ブロック / レベルダイアグラム





* This is a Diagram about ST OUT and MONO OUT when a signal inputs from one of the ST INSERT L INPUT and the ST INSERT R INPUT.



サービスについて

● 保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめの上、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間は買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

● 損害に対する責任

この商品（搭載プログラムを含む）の使用または使用不能により、お客様に生じた損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益）については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

● 調整・故障の修理

「故障かな？」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理に際しては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

● お客様ご相談窓口

ヤマハ PA 製品に関するご質問・ご相談はお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問い合わせはヤマハ修理ご相談センターへおよせください。

お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678

Fax: 03-5488-6663

(電話受付＝祝祭日を除く月～金/11:00～19:00)

ONLINE support: <http://proaudio.yamaha.co.jp/>

● 営業窓口

国内営業本部 EKB・LM 営業部

営業推進室

〒108-8568

東京都港区高輪 2-17-11

TEL 03-5488-5430

PA・DMI 事業部 PA 推進部

MIPA マーケティンググループ

〒430-8650

静岡県浜松市中区中沢町 10-1

* 名称、住所、電話番号、URL などは変更になる場合があります。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

市内通話料OK

ナビダイヤル

※ 一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP 電話からは

TEL 053-460-4830

受付時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00、

土曜日 9:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX

053-463-1127

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間

月曜日～金曜日 9:00～17:45

(浜松サービスステーションは 8:45～17:30)

(祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543

札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50 ヤマハセンター内

FAX 011-512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島 2 丁目 1-1 京浜トラックターミナル内 14 号棟 A-5F

FAX 03-5762-2125

浜松サービスステーション

〒435-0016

浜松市東区和田町 200 ヤマハ(株) 和田工場内

FAX 053-462-9244

名古屋サービスセンター

〒454-0058

名古屋市中川区玉川町 2 丁目 1-2 ヤマハ(株) 名古屋倉庫 3F

FAX 052-652-0043

大阪サービスセンター

〒564-0052

吹田市広芝町 10-28 オーク江坂ビルディング 2F

FAX 06-6330-5535

九州サービスステーション

〒812-8508

福岡市博多区博多駅前 2 丁目 11-4

FAX 092-472-2137

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハプロオーディオウェブサイト

<http://proaudio.yamaha.co.jp/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation

© 2003 Yamaha Corporation

WA66520 001CRZCx.x-xxD0

Printed in Indonesia